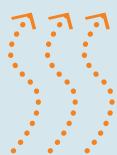


セブン-イレブン 記念財団の取り組み

「森」と「海」、2つの視点から「CO₂吸収と酸素の排出」を増やす「豊かな自然環境の再生」を進めています。活動には加盟店やセブン-イレブンの本部社員、グループ社員も参加しています。

蒸 発



降 雨



海

森

海づくり

「東京湾 UMI プロジェクト」

2013年から、東京湾の環境改善に取り組む国土交通省の「東京湾 UMI プロジェクト」に協力し、横浜でアマモ場の再生活動に取り組んでいます。

アマモは、海中の栄養や CO₂ を吸収し、酸素を放出することで海を浄化する海草です。

アマモ場は、小魚などの隠れ場・生育場、魚の産卵場にもなるため、「海のゆりかご」とも言われ、生物多様性の保全に役立っています。

アマモの葉



2017年5月の「東京湾 UMI プロジェクト」活動の様子

（ブルーカーボン※）
アマモが CO₂ を吸収し酸素をつくります。海が浄化されることで魚のえさ場、産卵地になります。

※海の生き物によって吸収・固定される炭素



2017年7月、国土交通省関東整備局から功労賞を受賞

（グリーンカーボン※）
森林に降った雨水は腐葉土に蓄えられ、ミネラルたっぷりの水に。森林の土壌が水を貯蓄します。また、急激な出水や土砂の流出を防ぎ雨水が森林土壌を通過することで、水質が浄化されます。

※森の植物によって吸収・固定される炭素



高尾セブンの森づくりで下草と低木を刈る様子

森づくり

「セブンの森」活動

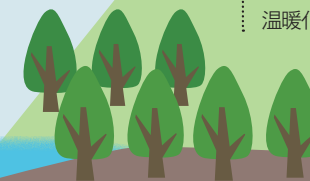
低炭素社会を構築するために、森林の保護・保全活動に取り組んでいます。

セブン-イレブン記念財団が全国17カ所で取り組んでいる「セブンの森」づくりは、「森も海も蘇る」森づくりをコンセプトに、植樹から下刈り・間伐までの森の保育活動を行っています。

また、間伐材を募金箱や商品パッケージ、建築資材などに積極的に使うなど、木材を循環させていくことで森林保全と地球温暖化防止につなげています。

河畔林

上流から運ばれた養分が中・下流の河畔林を生み、魚が住みやすい環境をつくります。



セブン-イレブン店舗のレジ横に設置されている募金箱。宮城セブンの森の間伐材が使用されています

セブン-イレブン記念財団とは

（株）セブン-イレブン・ジャパンの創立20周年記念事業として、加盟店とセブン-イレブン本部が一体となり、環境をテーマに社会貢献活動に取り組むことを目的として、1993年11月に設立。

セブン-イレブン店頭でお客さまからお預かりした募金と、（株）セブン-イレブン・ジャパンなどからの寄付金をもとに、「環境市民活動支援」「自然環境保護・保全」「災害復興支援」「広報」の事業領域を設け活動しています。



環境市民活動助成で地域の市民活動を支援

助成金を市民団体にお届けし、地域の環境活動を支援する助成金制度「環境市民活動助成」を設け、支援が必要な助成先団体を公募し、直接活動を支援しています。

2017年度

助成総数 302件
助成総額 1億6,742万円

2001～2017年度までの累計

助成総数 3,249件
助成総額 20億2,476万円